

# 甲南大学 総合研究所所報

## 第 55 回 総合研究所公開講演会

### 「戦時記者によるアフガン・シリア・福島 of 最新報告」

平成 24 年 12 月 8 日 (土)

講師 西谷文和氏

(フリージャーナリスト・イラクの子どもを救う会代表)



#### 胡所長：

みなさん、こんにちは。いつも総合研究所の公開講座に参加していただきまして、誠にありがとうございます。研究所の所長の胡金定と申します。よろしくお願いたします。甲南大学の総合研究所は学部、学科の枠を越えて、複数の研究者が協力して研究をする共同研究の活発化を目的に 1984 年 5 月に設立されました。来年で 30 年を迎えます。主な活動は三つあります。まず講演会を行います。講演会は年に二回行います。前期の 6 月あるいは 7 月に行います。もう一回は 11 月か 12 月に行います。二番目の活動は研究活動です。甲南大学は現在 8 学部あります。学部の壁を越え

て共同研究を行っております。毎年、同じテーマのチームを募集しまして、二年間の研究期間を設けまして、各チームの特色を出していただき、成果を発表しているのです。三番目の活動は出版活動です。講演会の講演概要を、甲南大学総合研究所所報として年二回刊行しております。これは無料でいろんなところに送り交流しているわけですが、欲しい方がおれば是非申し出てください。出版活動のもう一つは各研究チームの研究成果をまとめまして、甲南大学総合研究所の叢書として刊行しております。平成 24 年で 110 号を超えております。欲しい方がおれば是非申し出てください。

今日は第 55 回の総合研究所の公開講演会にあたります。今回はフリーランスジャーナリストの西谷文和先生をお招きして講演会を行いたいと思います。西谷文和先生の経歴はこのチラシにありますので、簡単に紹介させていただきます。1979 年に立命館大学を中退して、1985 年に大阪市立大学を卒業しました。同年に吹田市役所に勤務されました。取材活動は 1999 年からコソボ内戦取材をきっかけにして、5 年間の兼職をしながら取材活動を展開されました。2004 年に吹田市役所を退職して、フリーランスジャーナリストになりました。かなりのベテランの記者だと思っておりますので、今日のテーマは非常に楽しみにしております。著書も多く、経歴に三つ挙げております。それから DVD などの出版もあります。テレビにもラジオにも

よく顔を出されているわけで、おなじみの方も多いと思われま。それでは大きな拍手で西谷先生をお迎えいたしましょう。西谷先生どうぞよろしく願いいたします。

#### 西谷先生：

どうも、みなさんこんにちは。西谷と申します。今紹介していただいた胡金定先生とは、大阪城の花見で知り合いまして、私はフリーランスのジャーナリストになった翌々年くらいでしたので、先生との付き合いは6年くらいになります。2004年までは吹田市役所で公務員をやっています、そこを辞めて今はフリーになっています。年に3回から4回くらい外国に行きます。その行き先はアフガンであったり、シリア、イラク、そして先月はモンゴルに行ってきました。何故モンゴルに行ったかという、今日のテーマにも関わりますが、日米の原発から出た核のゴミをモンゴルの草原に埋めるという案があるんですね。それで、遊牧民の住んでいるところに行きまして、埋められそうところを取材してきました。モンゴルはウランの推定埋蔵量が世界一なんです。どういうことかと言いますと、日本もアメリカもセットになって原発を売り込みにかけているんです。ベトナムとかトルコとかサウジアラビアに売り込みます。そのときの売り文句が、そこで出てきた核のゴミをあなたの国には押し付けませんよ。引き取りますということなんです。例えば、ベトナムで原発を売った場合、ベトナムの原発から出てきたゴミは引き取らなあかんわけですね。でも、引き取り先は日本にないですよ。日本でも困っていますから。それで、モンゴルの草原の下に埋めるという案が水面下で進められておまして、これは実現の確率がかかなり高いと思います。首都のウランバートルから北東に800km行った、昔のノモンハン事件があった辺りが核の最終処分場になりそうなので、そこに行って取材をしてきたわけですが、今日はその映像が間に合いません。申し訳ないので、その映像をご希望される方は、メールまたはFAXをしてください。無料で郵送いたします。現在作成しております。

今日のテーマ「アフガン・シリア・福島の最新報告」を通じて、皆さんと一緒に戦争と原発について考えていきたいと思。それでは、まず戦争の話から始めていきたいと思。私は毎年アフガニスタンに行きますので、アフガニスタンの人々の暮らしから見

て頂ければと思。す。

—アフガニスタンでの取材 (ニュースステーション) —



アフガニスタンの状況というのは今見て頂いた通りです。私は今年の2月に行きまして、 $-20^{\circ}\text{C}$ くらいの気温であのテントでしたから、たくさん子どもが死んでおりました。30年以上戦争をしている国なので、貧しいのは戦争のためです。この戦争の出口がなかなか見えないので、ずるずるとかつてはソ連と戦って、今はアメリカとやっているわけです。なんとかして止めたいと思っているのですが、戦争は始まるとなかなか終わらない。そのことについてはまた後で皆さんと一緒に考えたいのですが、今アフガニスタンの人々は地雷に苦しんでいるというのを見て頂きました。地雷というのはCD一枚くらいの大きさです。これが地面に埋まっていて、それを運悪く踏むと、大体片足が飛ぶというようにわざと設計されています。人を殺さないように作ってあるんです。人を敢えて傷つけるように火薬の量を調整しているんです。それは何故かと言いますと、こちらに10人、こちらに10人いて、10対10で打合いが始まったとします。AとBの軍隊がいて、Aの部隊のところに運悪く地雷がありました。誰かがそれを踏んだ。ばあーんと爆発して即死したら、その瞬間10対9ですけれども、実際は足から血を流して痛い痛いと言っている、その人を助けないといけません。仲間の兵士2人が病院に連れて行けば、その瞬間Bは10で、Aは7ですからね。そういう意

味では、10 がかなり有利に進みますし、それと心理的な面で、人が亡くなりますと残り 9 人は兵士の仇を取ろうと団結ができるわけですが、生き残っているのです。翌日から痛い痛いと呼ぶ兵士を見て生活するわけですね。恐怖心が湧きますから、戦う意欲が下がっていきます。そういうことで、敢えて足が吹き飛ばくらいに作られています。簡単なクイズです。この地雷の値段は 1 個いくらかという問題です。1 番 300 円と思う人？ 2 番 3,000 円？。3 番 30,000 円？。正解は、大体 300 円から 500 円と言われておりまして、今、円高ですから 300 円するかしないかだと思います。つまり地雷を埋める兵士にも責任がありますが、むしろもっと責任が大きいのはこの 300 円地雷を作った会社や 300 円地雷を大量に販売した武器商人がいるわけですから、そこの責任を追及しないといけないのではないかと思う訳です。

地雷の話をしました。次にアフガニスタンでもう少し値段の高い兵器、劣化ウラン弾の話をしていきます。お聞きになったことはあると思いますが、非常に残酷な兵器です。私はイラクとアフガニスタン両方でこの取材をしてきているので、特にアフガニスタンの話題から見ていきます。

#### —劣化ウラン弾の被害の映像 (ニュースステーション) —

今見て頂いたのが、イラク、アフガニスタンで広がる劣化ウラン弾の被害です。毎回行くたびにびっくりします。病院を訪れるのですが、癌の子どもも多いですし、先天性の異常がある子がたくさんいて、肛門がないとか、指がくっついているとか、あるいは眼球がない子がいっぱい生まれるんですね。イラクもアフガンも医者たちは、間違いなく戦争まではこういう子は少なかった、滅多になかったと言います。しかし戦争後は急増しているということです。状況証拠的には劣化ウラン弾でほぼ間違いのないだろうと、僕は思っているわけです。劣化ウラン弾の説明をさせてください。これが弾だとします。アメリカはこの弾の先にウランを詰めたんです。なんでウランを詰めるかという、ウランという金属が最も重くて堅いんですね。それで何を狙うかという、戦車を狙います。1980 年代までは、この弾の先には鉛とかタングステンが入っていたわけです。ところが、戦車も丈夫になってきますから、普通の鉛の弾ではなかなか貫通しなくなりました。

湾岸戦争から使い始めているのですが、ウランを詰めたら見事に戦車を貫通して爆発させることができました。しかし、劣化しているとはいえ、ウランですから爆発すると飛び散ります。そして兵士は国に帰っていきますが、アフガン人やイラク人はそこに住んでいますから、空気中からウランの粒を吸い込んだり、食べ物から入ったりして、じわりじわりと内部被爆をします。そんなメカニズムでものすごい被害が広がっているわけです。

ちなみにこの劣化ウラン弾は一発いくらくらいするかというと、さっきの地雷より高いです。50 万円から 100 万円くらいです。これが大量に使われるわけですから、劣化ウラン弾を作っている会社は戦争がいいか、平和がいいかという、世界のどこかで戦争が続いてくれているならば、作ったら作っただけ売れるわけですから、おそらく、戦争してくれと願っているかもしれませんね。

テレビではなかなか話せないのですが、劣化ウラン弾のウランはどこから出てきたか、という話に移りますが、それは結論からいいますと原発です。ウランというものはその辺に転がっているものではないですね。地中深くにねむっているわけです。オーストラリアとかモンゴルとかアフリカの大地の下に。大体 300 m、400m 掘り進んで、ようやくウラン鉱にぶち当たります。そしてその天然ウランを掘ってくるわけです。それは何のためかという、日本やアメリカやフランスやイギリスに原発があるからです。その原発で燃やすために、天然ウランを掘っていきますが、天然ウランはそのままでは原発で燃えない訳ですよ。どうするかというと、一旦アメリカの工場へ送ります。アメリカの工場で濃縮作業、ウラン濃縮をします。つまり、天然ウランを濃縮して、濃縮ウランが原発で燃える。濃縮ウランをもっと濃縮すると、広島型原爆になるということですが、この濃縮ウランを作る際に出てくる絞りカス、これが劣化ウランです。これを本来なら安全に管理しないとイケないのですが、リサイクルして弾に詰めたのが劣化ウラン弾だということです。端的にいうと、鉛やタングステンよりも安かったわけですよ。捨てるものですから。それをリサイクルしたものですので、アメリカにとって非常に都合のいい兵器です。原価が安いということと、効果的であるということです。今、申しましたようにマスコミでは、戦争は報道します。原発も報道しますが、戦争と原発が実は

結構繋がっているということは、あまりテレビでは報道しません。別々に報道されますので、その繋がりとかが私たちにはなかなか見えてこないのですが、私は繋がっていると確信しております。

それでは次に、劣化ウラン弾、地雷、そういう戦争取材をしてきたのですが、最近特に話題になっている兵器の一つにクラスター爆弾というものがあります。お聞きになったことはありますか？今のシリアでも使われていますので、クラスター爆弾というものも非常に残酷な兵器です。これを見てください。

#### — クラスター爆弾の映像 —



今見て頂いたのが、クラスター爆弾でありましたが、この映像を撮影して DVD を作ったのが 2008 年 3 月でしたので、一箇所だけ訂正しないといけません。それは日本政府のところでは、日本政府はクラスター爆弾を禁止することに当時は後ろ向きでした。カナダやノルウェーの方々が非常に頑張って国際的世論を盛り上げていただいて、クラスター爆弾はあまりにも非人道的だと、悲惨だということで、世論が高まったので、日本は麻生内閣の時にクラスター爆弾の禁止条約に調印をしました。それ以後、この条約は発効してい

ますので、今は日本もクラスター爆弾を作らない、使わない国の仲間入りをする事が出来ています。これは非常に良かったと思います。クラスター爆弾禁止条約を結べましたので、現在国連では劣化ウラン弾を禁止しようという動きが非常に高まっています、これはかなり賛同する国が増えてくるのではないかと思います。

残念ながら、アメリカやイスラエルやロシアなどは調印しない可能性が非常に高いわけですが、あきらめずに声を上げていけば、爆弾を止めることができる。つまり、核兵器も廃絶することができるのではないかと思います。そんな風に思っていたら昨日オバマが核実験したので、一進一退だなと思いますが、何よりも世論を高めるというのが大事なことでありと考えております。

それでは、今日は最近の戦争も見て頂こうと思います。まずはリビアから行きたいと思います。みなさんもお存知かと思いますが、昨年までカダフィー大佐が生きていて、私は昨年 5 月にリビアに入りましたが、当時はカダフィー軍と反カダフィー軍が熾烈な内戦をしていました。そのところの映像を見て頂きたいのですが、まずリビアの説明を簡単にしたいと思います。

リビアの地図が出ておりますが、一番右の国これはエジプトですよ。このエジプトの隣がリビアです。その隣にチュニジア、アルジェリア、モロッコと続いています。この北アフリカの国々、特にエジプトとリビアの間、国境線まっすぐですよ。通常国境線というのは山とか川でありますから普通はまっすぐでありえない訳ですが、これは何故まっすぐかという第一世界大戦後イギリスがエジプトを占領します。リビアを占領したのがイタリア。ですからイギリスとイタリアで勝手に話をつけて東経 25 度で線を引きました。これが国境線です。中東やアフリカでは定規を引いたようにまっすぐな国境線がありますが、これはほぼ間違いなくヨーロッパが勝手に線を引いたと思います。そして今やその国境線をめぐって戦いが始まる、そういう構図であります。リビアの西半分、どういふところかという、トリポリタニアといいます。これは地中海です。紀元前フェニキア人と呼ばれる人々が船に乗ってやってきて、サブラータ、フォムス、レプティスマグナと、三つの町を開きました。三つというのは英語でトリです。町がポリスですから、ここはト

リポリタニアと呼ばれていまして、首都はトリポリです。リビアの東半分はセレイナイカと言いましてギリシャ人が船に乗ってやってきて、このベンガジという町を中心に開いていった国であります。今回のアラブの春はこのベンガジを中心に人々が集まって民衆が蜂起した訳です。カダフィー独裁政権反対ということで、ここから革命が西へ西へと押し寄せていったということでもあります。リビアは石油が大量に出ますので、そういう石油の利権などもあったのではないかと思います。

それではですね、このミスラタ。私が5月に行った時の最前線の町でありますので、このミスラタの町の様子を見ていただきます。戦争をしたら絶対こういうことになるので、戦争をするべきではないと私は思います。その町の様子から見てください。

#### — ミスラタの映像 —



戦争になると、こんなことを毎日やるわけです。たとえば、先ほど30秒くらいの間にダダダッと60発くらい撃ちました。銃弾の種類によって値段が違うかと思いますが、1発5千円とするとそれだけで0.5×60=30万円です。つまり戦争というのは莫大なお金が動いているという訳です。ちなみに今、沖縄で話題のオスプレイ。あれは一機56億円です。オスプレイ

なんて平和ではいけない訳です、オスプレイを作っている会社、劣化ウラン弾を作っている会社、様々な銃弾を作っている、地雷を作っている……いろんな会社があるわけですが、おそらく彼らは世界中のどこかで戦争がおこって欲しいと願っているのではないかと僕は思う訳です。ところが、国民はバカではないので、戦争がいいか平和がいいかという、それは平和がいいに決まっているので、戦争反対の声を挙げますから、そう簡単に戦争を仕掛けることはできません。そうするとなかなか戦争で儲けることはできません。彼らにとって困ったことになる訳です。恐らくそういう戦争をしたい人たちはお金と権力を持っているので、テレビや新聞などをコントロールして、国民にこれは戦争をしないとしょうがないと、この戦争は正義なんだと思わせるような情報操作をするのではないかと私は思う訳です。今から見て頂くのは20年前に湾岸戦争がありましたけど、実は湾岸戦争は嘘で始まっているということなんです。ちょっと見てください。

#### — 湾岸戦争の始まり —

この湾岸戦争で少女のでっちあげ証言を流したというのは結構有名な話でありまして、あの少女のでっちあげ証言を全米を通じてテレビで流します。そうすると米国民はイラクのサダム・フセインという大統領はとんでもない奴だと思っ訳です。隣の国のクウェートを侵略した上に病院を襲って、子どもたちを全員殺したと。こんな大統領は許すわけにはいかないのでアメリカが先制攻撃をかけてフセインを潰してしまえということで戦争が始まりました。戦争が終わって1年ちょっとしてから、あの少女の話は全く嘘であることがバレました。でも、ばれた時には戦争は終わっているんで劣化ウラン弾も戦車も戦闘機も大量に売られています。そしてイラクは先ほどのリビアよりも石油が出る国ですから、石油の利権なんかも欧米の企業がおさえていたということですね。戦争と嘘というのは非常に関わっておりまして満州事変というのは、でっちあげ事件ですし、大本営発表、当時はテレビがなかったわけでラジオと新聞で嘘ばかり、日本は負けているのに勝ってる勝ってる……最後は神風が吹くから勝つんだみたいなことを言っていたわけですが……これは全く嘘でありますよね。そういう意味では、その戦争に向けて世論がイメージ的に動かされると

というのは非常に注意しておかないといけない。この尖閣の問題を巡っても、勇ましいことを言った人の支持率が上がったたりするけれども、彼らが戦争に行くかといったら彼らは行かない。恐らく若者たちに行くと命令するだけです。戦争というのはそういうものですよ。昔は自民党の政治家も自分が戦争を経験しているので、戦争だけは避けようとしたと思いますが、現在はその二世三世がやっておられるので、戦争を知らない方が自分の人気を高める、あるいは支持率を上げるためにそういうことを言ってチキンレースをしていきます。これは非常に危ないですよ。戦争をすればアフガニスタンみたいになりますし、今からシリアを見てもらいますけど戦争だけは避けるというそういう知恵みたいなのは必要な訳ですが、なかなか残念ながら今のテレビも過激な発言の方を大量に流しますから、そういう意味ではちょっと落ち着いて考えていく必要があるのではないかと思います。特に、広告です。このCM、こういうものはイメージ操作されていく。こういうCMが地震までは流れていたわけです。大量に流れておりました。

#### － 星野監督出演の原発のCM －

このコマーシャルはさすがに地震後は流さなくなりましたが、こういうものを東電や関電はバンバン流していたわけです。ここでちょっと冷静に考えてみてください。トヨタやパナソニックやシャープのCMならわかります。ここにテレビを欲しい人がいて、ソニーを買うかシャープを買うか迷っていると。そこでシャープのコマーシャル吉永小百合が出てきて、AQUOSと言ったとします。シャープいいな。シャープ買おうかなと。これがコマーシャルですよ。つまりライバルがいるわけです。ライバルよりも自社製品が良いので買ってください。これがコマーシャルですが、東電や関電はライバルがないわけですよ。だからコマーシャルを流す必要がないんです。流しても流さなくても契約者数は一緒で、売り上げは一緒のはずです。でもバンバン流していました。テレビの広告の大体ベスト10には必ず東電や関電が入っているんですね。原発は安全ですよ。クリーンですよ。これ、何故なのかということですが、その答えは実はわたしたちの電気料金にその仕組みがあるわけです。結論から言いますと、コマーシャルをバンバン流しても、コストの

高い原発を作っても、それらはすべて電気料金にはね返ります。コマーシャルを流しても損をしないんです。私たちが払っていると……そういう仕組みなんです。これは総括原価方式という仕組みなんです。是非これだけ覚えて帰ってもらえたらありがたいなと思います。ちょっと時間もないのでさわりだけ見てください。

#### － 原発について －

つまり、同じ100万kwの発電所を作るのに、火力で作った方がコストは安いわけですね。原発で作るとコストは高いわけです。普通の企業だったら安い方がいいと思うはずですが、それだと×3%の利潤が少ないわけですので、高い方の原発で3%を乗せた方がいいだろうと。あるいは、一回作ったものを長く使えば、毎年×3%の利潤が生まれていますから、止めてしまうと資産ではなくなるので×3%の報酬が得られません。再稼働しないと赤字になるということだろうと思います。コマーシャルについては、コストの問題よりもテレビを支配する。つまり星野監督の出ているコマーシャルを一回流すごとに100万円だとしますね。それぐらいかもしれません。一日10回流れたら1千万円ですね。この1千万円のお金が、関電や東電からテレビ朝日、日本テレビ、フジテレビ、朝日放送、毎日放送、読売放送に振り込まれていく。そうすると、テレビ局は良いお客さんですから、流すだけ流して、事実を流さない。つまり、原発は地震に弱くて潰れたら街ごと壊滅しますよと、こういうことは言わなかった。そんなことで、なんとなく安全だと、あるいはなんとなくクリーンだと、そういうイメージが安全神話に繋がっていったということだと思います。

ちなみに戦争も原発も儲かりますので、この原子力マネーというのはいかに莫大かというエピソードがあります。一つだけ紹介したいと思います。青森県の知事選挙です。知事選挙は4年に1回あります。青森県のとある知事選挙の時に、青森県というのは六ヶ所村を抱えていますし、東通、大間原発、つまり青森県の知事選挙というのは、かならず原発をどうするかということが争点になります。保守系の無所属で原発を進めるといって人が出てきました。もう一人は無党派の無所属で原発をこれ以上造りません。凍結しますという人が出てきました。デッドヒートになったそうです。

そのときにアントニオ猪木さんの事務所に凍結派から電話がかかってきました。

「猪木さん、今青森県で知事選挙しています。ついては1回150万円です。青森に来て、応援演説してくれませんか」と。こういう提案だったんですね。猪木さんはそれを聞いて150万円貰っていきこうと決めた時に、どこかからその話が漏れたんでしょうね。原発推進派のほうから猪木さんの事務所に電話がかかってきて、「うちもっと出しますから、猪木さん、うちに来てくれませんか」と。どうなったかという、猪木さんは150万円を返して、推進派の方のお金を貰って、青森にいった応援演説をしたのですが、さていくら貰ったのでしょうか。凍結派が150万円ですね。推進派はもう少し出しているはずなんです、500万円を超えていると思う人？はい、半分くらい手が上がっていますね。そうです。500万円を超えています。1000万円を超えていると思う人？はい、2人～3人。そうです、1000万円を超えています。5000万円は？実は、5000万円を超えておまして、なんと1億円出したんですよ。これは猪木さんの秘書がばらした話でありまして、これに対して猪木さんは名誉棄損の訴えをしていませんから、おそらく1億円は出たんだろうと言われております。

つまり原子力マネーというのは、私たちの想像以上のお金が出ているということでありまして、立地自治体もお金の力で押さえつけられると。あるいはモンゴルの政府もお金の力で押さえつけて、草原に埋めたらいいんだと、そういう発想になるんでしょうね。原発というのを私は無くしていきたいと思っておりますが、なかなか敵は強いわけです。お金を持っていますから、そういう相手とやらないといけないという風に、私は感じております。それでですねCO<sub>2</sub>を出さないってありますよね。これは全く嘘なのでちょっと見てください。

#### － 原発について CO<sub>2</sub> を出さない？ －

見て頂いたわけですが、やっぱりコマーシャルを使って嘘を言わないでほしいと思っておりますね。情報公開もちゃんとしてもらいたいですし、本当に電気料金を上げないといけないのか。あるいは夏、本当に原発を動かさないと電気が足りなかったかどうか。こんなことも検証しないとはいけませんが……。

今見ていただいたのが原発の話でした。

戦争と原発は非常によく似ております。共通点その一はどちらもお金が非常に莫大に動いていて一部の人が甘い汁を吸っていたのではないかということ。その二はウランですね。どちらも核……。濃縮ウランが一気に爆発したら広島型で、じわじわ燃えるのが原子炉ですから、原理は一緒で出てくる死の灰も一緒です。共通点その三は差別ですね。戦争は差別を生みます。両足を失った子供とかに取材をするのですが、そういう子供は小学校に行かなくなります。友達がサッカーをしておりますので、それを見るのがつらいですから……。だから家にこもってしまいますね。福島も爆発がありまして残念ながら被爆してありますので、もしかしたら結婚の時に、福島出身ということがバレれば、丈夫な赤ちゃんが産まれないかもしれないので、破談だということになる可能性もあります。どちらも新たな差別を生みますので、私はない方がいいという風に考えております。時間がありませんので今日のテーマの一つ、シリアを駆け足で見て映像の方はこれで終わりたいと思っておりますが、実は私はシリアに今年の4月と9月に行きました。今回見て頂くのは9月の分です。山本美香さんが殺されてから20日後の同じ町、アレッポと言うところに入りました。アレッポのところから見てもらいたいと思っております。

#### － シリア・アレッポの映像 －





時間がないので結論だけ言いますと、シリアというのは1日100人単位で今も人が死んでいるわけです。例えばロンドンオリンピックでなでしこが勝ったとか、誰々が金メダルを取ったという日も100人死んでるわけです。もちろんなでしこを報道してほしいです。確かに見たいですから。でも、すべてのテレビ局がロンドンオリンピックばかり報道するでしょう。この国は。そうではなくて、1局くらいシリアや沖縄、あるいは原発の話などを専門で報道する局があってもいいはずなんです。

ところが、この国のメディアは横並びです。尼崎の事件があったらみんな尼崎です。そういうのは、もうやってほしくないんです。ちゃんとした報道もやってほしいですし、それを発信することで、シリアのような国が今でもあるということ。そのシリアという国をどうするのかということを考えなくてはいけない。ところがアメリカは大統領選挙で非常に忙しかった。EUはギリシャの問題などがあって非常に内向きだった。

日本は政局に明け暮れていて、シリアの問題に国際社会が注目しないうちにこういうことになっている。この事実だけでも伝えたいということで、恐らく山本美香さんは入って行って撃たれて、非常に残念なことになりましたけれども、そういう意味では彼女のしたことは間違っていなかったと僕は思いますし、素晴らしいジャーナリストだったと思っています。今日ちょっとテーマが非常に大きかったので、戦争と原発両方やらせていただきました。特に今、国防軍を作って中国とも戦えるようにしようと言っていますけど、戦争をすれば、ああいう風になるんです。ですから、戦争だけは避ける知恵みたいなものを、もっと私たちは持っていないといけないし、勇ましいことではなくて、もっとやわらかい交渉で危機を乗り越えていくという、そういうことも含めて私たちは考えていかなければいけないという風に思っております。あと10分ありますので質疑応答の時間にします。一旦これで終わります。どうもありがとうございました。

胡金定先生：

戦争の怖さ、戦争の背後には利権という構造を紹介していただき、いい勉強になりました。また原発と利権との関わりがあることもよく分かりました。たまたま私は今甲南大学総合研究所の所長を拝命しております。国籍は中国ですが、別にその尖閣諸島を意識しながら西谷先生をお招きして、今日の講演をしていただいたわけではありません。西谷先生は私の友人で、戦時記者として活躍され、今の世界情勢はあまりよくないこともあって、戦争になりそうな雰囲気がありますので、改めて戦争ということを確認する必要があると判断して、今日の講演を実現しました。戦争という怖さが再度認識されたと思います。良識のある国民・市民たちは歩調を合わせて戦争を阻止しなければいけません。それでは、質疑応答に移りたいと思います。質問のある方は挙手でお願いします。

質問1

興味深いお話ありがとうございました。マスコミの情報統制ですが、それが非常に日本で大きく問題になっていると思うんですね。一番怖く感じたのは、この間のロンドンオリンピックの時に開会式の行進の途中で日本選手団は全部外に出されてしまったんです。



その時も日本のマスコミは全然放送していないし、選手団の人たちが帰国したら何か言うんじゃないかと思っていたのに、それも全く何も言わず、マスコミだけでなく、一人一人の人間自身も、自分の立場を守りたいから、流れに従うということに、ものすごく怖いと感じているんですけども。あの件はどうお考えですか？

西谷先生：

本当にその通りだと僕は思います。今イメージの問題が出ましたが、私は最初に言いましたようにノモンハン事件のあったところに行きました。そこに恐らく核のゴミが埋められそうだといいましたが、日本ではノモンハン事件と言いますが、あれは明らかに戦争なんです。ノモンハン戦争です。日本満州連合軍対ソ連モンゴル連合軍で、明らかに日本側が攻めて行って、負けて2万人近くの人が死傷した。ということはノモンハン戦争と言わなければいけないのが、ノモンハン事件と呼んでいるのは何故かという、これは恐らく戦争と言えばどっちが勝ったんや？どないだったんや？日本兵が2万人も死んで誰が責任をとるねん？ということになりますから、ノモンハン事件とこういう風に呼ぶ訳です。つまり事件ならイメージがまだマシですから。それと同じことが東電や政府にも言えまして、福島原発が爆発した時に、どこをどう見ても爆発なのに政府も東電も爆発的事象ってこういう風に言う訳です。なんやねん？一体それは？と思いますし、それとインターネットができる方は試してみてください。漢字で「福島爆発」と打てば、あまり出てきません。爆発の映像が。ところが英語で「FUKUSIMA」と打てばいっぱい出てきます。それは何故かという、中国やロシアのインターネットであの爆発が大変な爆発だということをやっているからです。つまり自分の国の嫌なところは見せないようにしている、あるいは爆発なのに爆発的事象と言い換えてしまう。そういう国なんです。そういう意味ではロシアや中国を人権がないとか批判しますが、日本も政治家は世襲ですし、似たようなもんだなと僕は思います。イメージを悪くしないように何となく言葉でごまかしていると。そういうところを見抜かないといけないのでそれを言ったわけですが、そこで繋がるのがマスコミですよ。マスコミの情報操作で色んなことがされてしまうという話をしましたが、ロンドンで日本選

手団が外に出されたのは間違いなく福島でしょ。放射能が危ないからロンドンオリンピックで出された訳ですよ。本来は抗議しないといけません。ちゃんとした開会式ですし、放射能を量ればいいわけです。何も出てこないわけですから。出てきたらそれは危ないので除染しないといけませんですけど、そういう科学的なことをせずに福島が危ないから出されるということは、これは明らかに差別だと思えますし、それを抗議すればいいのに、抗議しないのは、恐らくそういうことをすると寝た子を起こすとか、あるいは福島の悪いイメージがもっと広がってしまうとか言う人がいるんでしょうね。でもそれは、隠せば隠すほどダメになる訳ですから、しっかりと放射線を量って日本選手団は0だったと。それでいいじゃないですかね。ところがそういう事をしないので、何となく風評で福島産の物はみんな危ないと。会津若松辺りでとれたものは放射線を量ればそれほど出ていないのに、風評で福島産というだけでみんな×になってしまう。もちろん、ちゃんと量らないといけません。ロンドンオリンピックの事件は、そういう科学的なこともなしに何となく自粛してしまうという事ではなかったかなと思います。

マスコミの情報操作で言うと、今言ったことと逆の情報操作が多かったですよね。これくらいのベクレルやったらレントゲン一回浴びた分くらいやから大丈夫ですとかね。福島の事故の直後に出てきた学者は今あまり出てきませんが、彼らが言っていたのはレントゲン一回分だと。あれは外から浴びる外部被爆なんですよ。でもそれを吸い込んだらどうなるのか。放射能は距離の2乗に反比例しますから1mよりも10m離ればこれは100分の1になります。ということは10m離ればもちろん安心ですが、その粒を吸い込んだら、それは1cm、1mmになるわけで、そうするとその1千倍、1万倍危ないわけです。つまり内部被爆は恐ろしいわけですが、あの時誰も内部被爆をあまり言わなかったのです。そういう意味ではメディアの情報操作というのはいろんな意味でしっかり見ていかないとはいけませんし、私だってコロッと騙される場合があるので冷静に見ていかないとはいけません。そういう風に思っています。

## 質問2

アラブのこの3か月とか半年の動向と4、5日前か

らワーワー騒いでいる件を先生の独断と偏見と思いつきでちょっとお話していただけたらなと思います。

西谷先生：

私はエジプト、リビア、バーレーン、シリアに行きまして、これは私が見た話であって、全体の話ではないとまずお断りした上で、一つはバーレーンです。バーレーンはアメリカの海軍の基地がある島でありまして、ここは王様が支配している国で、この王様の独裁に対して人々は立ち上がりました。ところがそれはサウジアラビアの軍隊が見事に鎮圧しました。このバーレーンの事態について、あまりマスコミで報道されずに、そしてサウジアラビアが鎮圧したことについても世界的にはあまり批判は起こっていません。ところが同じく独裁者であるリビアのカダフィーやシリアのアサドに対して民衆が立ち上がった時は、メディアがこのカダフィーを倒せというのをダーンと流してそして最後はNATOまでが空爆しました。僕はNATOの空爆をOKするものではないのですが、リビアのカダフィーが独裁であるならば、同じようにバーレーンの王様の独裁も問題がある。サウジアラビアの王様の独裁にも問題があるとは思いますが、残念ながらそちらの方はあまり報道されなかった。アラブの春でも、そういう意味では倒れていったのが反米のリビア、そして今やられているシリアなんです。親米のサウジアラビアやバーレーンは生き残っていると。こういう点から見ればロシアや中国はなんでやねん？という風に怒るわけです。安保理で今回のシリアに関してはロシアと中国が反対をしたので、いわゆる軍事介入ができない状態なんです。そういう意味ではダブルスタンダードを感じました。イスラエルの核はいいのに、イランの核はダメなのかと。同じ理屈で、この西側のダブルスタンダードを感じながらも、でも本当に独裁者ってというのはひどいことをしていたんだなと思いました。というのもカダフィーは41年間国民に一回も選挙させてないんです。リビアは政党がなかったんですよ。あるいはシリアのアサド。今見ていただきましたが、下手したら毒ガスを使いかねない。毒ガスを持っていますから。フセインも毒ガスを使いました。アメリカも問題はありますけど、フセインにも問題があったと僕は思っていますので、そういう意味ではアラブの春とひとくくりにはしますが、かなり違いますよね。

エジプトの場合は、ある程度無血で革命ができましたし、チュニジアもある程度犠牲者は少なかったのですが、リビアやシリアの場合は内戦になりましたので、そういう意味ではひとくくりにするのは危険だろうと思います。ただ、私が行って感じたのは、ものすごいダブルスタンダードな世界だなと思いました。

胡金定先生：

予定の時間よりすでに5分間超過しましたので、今日の講演会はこれをもってお開きにしたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

<以上は2012年12月8日(土)甲南大学511講義室において開催された講話に基づく>